

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1105
施設名	中野南台ちとせ保育園
施設所在地	東京都中野区南台2丁目1-5
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「食育」

日頃から身近で大事な「食」に注目し、子どもたちが苦手意識を持っている野菜がどのようにしてできているのかを主役にした「食育」をテーマとして設定した。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

五感が発達している未就学の時期に「食」に関する知識をつけ、農業が持つ教育的な価値に目を向けて、様々な体験を得てほしい。

土や野菜に触れた時の感覚や香り、生き物、植物など、「どうしてきゅうりを切ったら水が出て冷たいのか？」など、食べているだけでは気付けない野菜の不思議、自然のパワーを問いとして設定することで、「こんなの初めて見た」と「もっと知りたい(触りたい)」という子ども達の知的好奇心を育みたいと考えたため。

「たべる」だけでなく「つくる」のところまで繋げてあげたい。

2. 活動スケジュール

令和7年 ※3, 4, 5歳児クラスを対象に以下の日程で行った。

5月13日 堆肥 1回目

6月6日 ジャがいも畑ツアー1回目

6月20日 お野菜販売会(5歳児)

10月20日 お野菜販売会(4歳)

10月25日 芋掘り遠足(4, 5歳児)

12月22日 リモート畑ツアー 2回目

令和8年2月16日 堆肥 2回目

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・専門の外部講師を呼んで園内で開催できるように野菜の購入、備品の購入
- ・リモートによる畑ツアー PCを使用したりリモートでの実施
- ・外部講師による畑のリモート中継を実施し、堆肥を実際に見て触れる活動

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・堆肥：実際に土に触れたり、クイズ形式でどんな栄養が必要なのかを知ったりして興味関心を深めていった
- ・畑リモートツアー：畑の映像を見ながら、野菜が育っている場の雰囲気を感じた
- ・お野菜販売会：季節の野菜を用意していただき、保護者や地域の方に向けて実際に販売をする
- ・芋掘り遠足：畑ツアーで見た畑に実際に行き、様々な野菜に触れて芋ほりする

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

今回の活動を反復しながら行うことで、子どもたちが主体的に興味を持ち、「こうやって野菜ができて」と、野菜の成長や大切さを身をもって体験している様子が伝わった。

堆肥に触ってみた子どもは、「すごい」「においが凄い」「くさい」などの子どもの率直な言葉などから、五感を通して「知る」事ができ、その知った事で、意見や疑問が次々と浮かび、子ども達の素直な興味や好奇心が膨らむ様子が見られた。また、保育士、子ども同士での会話もより一層「楽しい」「面白い」を共有することで、より深くなっていったように感じた。保育士の言葉がけも「答え」を知らせず、「一緒に考える」「待つ」ことで、子どもたちの発言が多くなっていった様子が見られた。また、一緒になって楽しんで参加することで、その時だけで終わるのではなく、今後の保育活動において何をどう伝えるのかなど、保育士が伝える言葉、メッセージについても考えるきっかけにもなった。微生物クイズでは「身近に何があるかな？」など、大人も興味深く感じるような、不思議な知識を得ることで、驚きの声も出ていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

担当者の方が、食への興味を引き出すためのきっかけを沢山提供していただいたことで学んだ事は全て「食べる」事へつながっている事、そして食事での挨拶「いただきます」の大切さを改めて感じることができ、より子どもたちも意識してしっかりするようになりました。

また、体験し知ること、出会う様々な「発見」はさらなる「疑問」からの「探求」にもつながり、そこに住む虫などにも広がっていった。自ら図鑑等にて調べるなどの姿は、「やらせる」のではなく、「やりたい」に変える為の取り組みの一つになったと感じています。この成果を今後の保育の中でもさらに深まるように、そして、どの年齢にも対応できるように職員間で共有していきたいと思えます。

堆肥は、直接手で触れ、香りがかぐなど、どのように変化していくのかなど、実際に触れるからこそ経験として「知る」ことが出来、とても良い機会となりました。